

## 直面したときに何を考え、どう行動するか

毎日、だいたい決まって1時間目に全クラスの授業の様子、というより、授業に臨む子どもたちの様子を見て回っています。課題に向かう集中した姿勢、積極的に挙手発言をする姿、教師の言葉にすぐ反応する姿、逆に悩んで考え込む姿等、様々な場面に遭遇します。

周りの環境を見渡してみると、左右の窓は換気のためにしっかりと開けられ、机も間隔がとられて整然と並んでいます。

日々のコロナ対策は継続され、気の緩みや甘さが見られた時はすぐに話をして修正しています。

きっと、他の学校や園・施設でも状況に応じたきめ細かな対策が取られているはずですが、しかし、いつの間にか感染者が発生し、急速に拡大し、クラスターとなっています。

もし身の回りに濃厚接触者、感染者が出たらと、起こるかもしれない事態に直面した時、何を考え、どう行動するかによって、**被害者を加害者に変えてしまう（仕立ててしまう）**という、**あってはならない事態**に及ぶことも考えられます。

2020年、ダイヤモンド・プリンセス号に乗船していた、東濃地区内の方で、療養後無事に帰宅できたのにも関わらず、どこでどんな情報が広まったのかわかりませんが、誹謗中傷の貼り紙を貼られたり、罵詈雑言を浴びせられたりしたことで、自宅に住むことができなくなった、という話を聞きました。正しく、集団心理によって生まれた、ありえない事態です。

先週金曜には、生徒指導担当から全校児童に対し、改めて思いやりの気持ちをもった行動の大切さについての話がありました。感染爆発による厳しい現状であるからこそ、噂や曖昧な情報を流さないこと、左右されないようにすること、さらに差別や偏見につながらないようにすることです。

保護者・地域の皆様におかれましても、感染症対策の継続とともに、差別や偏見を生み出さない意識高揚、慎重な言動を宜しくお願い致します。

こういう状況下こそ、地域のよさ・温かさを実感する機会になると言えます。